



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2020年
12月11日
発行

第66回 「2021年の世界の株式市場見通し」

～小幅上昇と予想～

初めに

2020年も残り少しくなりました。今年の株式市場は結局大幅高となりそうですが来年はどうでしょうか。今回は2021年の株式市場について考えます。

2021年の株式市場の4つのポイント

来年の株式市場については4つのポイントがあると見ています。新型コロナウイルス、環境問題への取り組み加速、米国の巨大IT企業への規制強化、ドル安の4つです。以下、順にコメントします。

新型コロナの影響は徐々に薄らぐ

各国でワクチン接種が始まったことなどから、新型コロナの勢力拡大には今後歯止めがかかると予想しています。特に米国ではコロナ対策に無関心なトランプ政権が、コロナ対策を重視するバイデンに政権に替わるため、被害が抑えられると期待しています。なおワクチンについては効果を疑問視する声や副作用を懸念する声もありますがここでは仮置きとして、「ワクチンは」有効との前提のもとに話を進めさせていただきます。

環境問題への取り組み加速

環境問題に対する関心は高まるばかりです。今年は日中が温暖化ガスの削減目標を発表した他、バイデン氏が次期大統領となることにより米国のパリ条約復帰が確実視されています。自分は元々環境問題は企業にとってコストと思っていましたが、今では新たな成長をもたらす市場に変わりました。この世界的な環境問題への取り組み加速は、2021年の景気や株式市場を支える要因と見ています。

米巨大IT企業への規制強化

当レポートで何度も取り上げました様に今米国では格差是正の機運が高まっていますが、その標的になっていると思われるのが「GAFA」と呼ばれる大手IT企業4社です。10月20日には米司法省が独占禁止法違反でGoogleを提訴、また米下院司法委員会は、10月6日GAFAに対し大幅な規制強化を求める報告書を公表しました。こうしたGAFAなどへの規制強化の動きはそうした企業の株価の重しになるかも知れませんが、逆に恩恵を受ける企業もあると思われるので米国の株全体への影響はそれほど大きくないかもしれません。

裏面へ →

西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等のご遠慮ください。

ドル安

今年の初めから、ドルは円に対して年初の1ドル108円から1ドル104円に下落、ユーロに対しては年初の1ユーロ1.12ドルから1ユーロ1.21ドルに下落しました。このドル安の理由としてはトランプ政権下の金融緩和や財政赤字の拡大が挙げられますが、世界のリーダーの地位を放棄しつつある米国への漠然とした不安もあると思います。もし、このままドル安が続けば、米国の輸入物価が上昇し、インフレ率に影響を及ぼすことになるかもしれません。そこまで行く可能性は小さいと思いますが一応の注意は必要でしょう。

2021年の株式市場は小幅上昇を予想

ここからは結論となりますが、今年と比べて新型コロナのリスクが低下することや環境対策の増加が見込まれることは、好材料と見ています。一方米国での企業への規制強化やドル安は懸念材料です。以上を踏まえて21年の世界の株式市場は小幅上昇に止まると見ています。